

留明いま・むかし 第67話

ルルモッペの逸話 4

(松浦武四郎の近世蝦夷人物史)

福士広志
海のふるさと館学芸係長

トナシカの村おさヒシ
ニシカという所の村長でヒシトナシカという者が私を送りに来た。それを見ると、髪は白髪で、髪は真白で、いかにも老人のように見える。それで、この者について支配人に聞いてみると、はっきりしたことは分からないが、この者にいろいろ聞いてみると、トナシカに弁天様の社がある。この社が建てられた時のことを知っており、その時十一歳くらいだったという。この社が建てられたのが百八年前である。これから考えるに、ゆうに百十九歳ということになる。しかし、顔かたちは衰えず、齒ならびもしっかり

し、耳も聞こえ、話しもはっきりしている。また、昔のことをよく覚えていた。この長寿に預かりたいと言うと白い髪を二本抜いてくれた。それで、お礼にその老人にアイヌの人たちが宝物というものと、米と酒をやった。考えるに、この老人が西蝦夷地で一番の長寿のものであろう。

これは、松田伝十郎「北夷談」の中に記されている話である。松田伝十郎は江戸幕府による第一次の蝦夷地直轄にあたり江戸幕府より蝦夷地御用取締掛を命ぜられ、以後二十四年間の勤務中、十八年を蝦夷地で過ごした人である。また、間宮林蔵と共に樺太を探検し、間宮より早く樺太が島であることを発見した。間宮海峡を初めて自分の目で確認した日本人である。彼が農民の出身とあって見聞したことをあるがままだに書き綴っていることは当時の蝦夷地を知る上でも重要で

ある。これが書き記された年は文政四年(1821)で、この年、伝十郎は宗谷詰、北蝦夷地見回りを命じられた。このため増毛に向かう途中にトナシカを通りこのヒシトナシカにあつたらしい。当時のトナシカはルルモッペ場

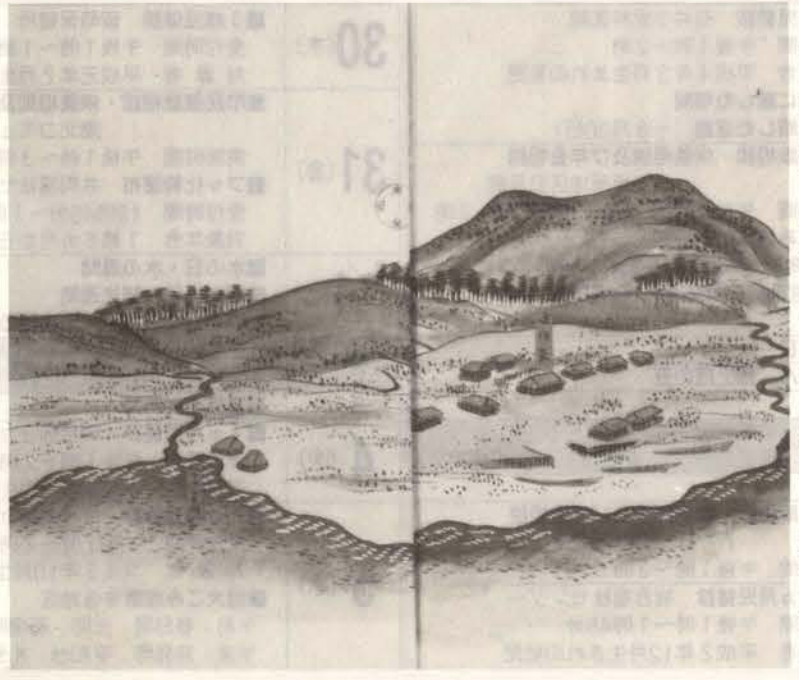


Photo report

歩徒 フォト



◀わーい・わーい・遠足は、やっぱり楽しいなっ。(憩いの森)

ゴールまでもうがんばり
▼市内小学校の運動会



▶夜でもだいじょソフトボールナイター施設



水道週間施設見学会
はーっ?おいしい水はこうして作られているの?



経緯度標(浜中運動公園)



雨もあがり、さっマイペースでいこう



なわとび大会(太子祭) がんばれ〜



クリーンアップ作戦(5月30日)



神居岩総合公園での一コマ